

Road



兵庫県立相生高等学校
第41回生 第2学年 学年通信
平成30年11月29日(木) 21章

進路について真剣に考える

〇3 年次科目選択の機会を生かして、進路について本気で考えてみよう

科目選択もほぼ決定し、来年度に向けて大詰め of 時期に入っています。これから進路をどのように決めていくとよいかこの機会に真剣に考えよう。

「入試は1年以上も先の話だから」とまだまだ進路を真剣に考えていない人が多いかもしれません。大学で大きな問題になっているのが、大学、学部、学科のミスマッチによる中途退学者の増加です。多額の学費、生活費を支払ったうえでの進路変更は家庭にも大きな負担を強いることとなります。それを避けるためには、早くから真剣に自分の興味、適性、環境等を踏まえた上で進路を考える必要があります。今がまさにその時期です。科目選択の機会を生かして今後の進路について真剣に考えてみましょう。

ステップ	ポイント
	明確な目標を持つことが夢の実現に向けての第一歩！
①学部・学科選択 (現在)	学部・学科の研究内容まで深く調べ、本当に自分のやりたいことができる学部・学科を見つけよう。
②志望校選択 (高3春～秋)	広い視野で志望校を選んでいく段階。本番に向けて、模擬試験の結果などを有効活用して、志望校を絞り込もう。
③入試本番 (高3冬)	自分の実力を最大限発揮するため、入試の詳細(入試方式や入試科目・配点など)を事前に研究しておこう。

2 学期期末考査目前！！

今年度は曜日の関係もあり、2 学期の期末考査は 11 月 30 日(金)から始まります。対策をはじめていますか？定期テストに向けてはスケジュールを立てることが基本になります。定期テストの範囲の問題を最低でもどの教科も一通りは学習できるように計画しましょう。テストが終われば、必ず復習をすることも忘れないようにしましょう。



無学年教材の学習を効果あるものに！

無学年教材とは英単語や古文単語といった今の学習の進度に関係なく学習できる教材です。41 回生では、これ等の定着のため、朝の小テストを行っています。多くの生徒が真剣に取り組んでいますが、気になるのはテストの前日とか当日の朝まとめて学習する人が多くいることです。しないよりはいいのですが、そういう学習法で学んだ内容は少し時間が経過すると頭に残っていません。経験ありませんか？それは短期記憶として記憶されたためです。せっかく学習しても、その内容が模試や入試まで残らないのは、もったいないと思いませんか？

それを改善するためには、短期記憶を長期記憶に変えることです。そのために、10分でもいいので小テストの学習を毎日取り組むようにしましょう。そうすれば同じところを1週間で3周、4周と学習することになります。繰り返すことで長期記憶になり、頭にしっかり残せるはずですよ。どうせ学習するのなら、効果的な方法に変えてみませんか。時間がとりにくい人は通学途中、昼休み、朝登校後など隙間時間を上手に活用しましょう。

相高生フォーラム



11月14日(水)相高生フォーラムが開催されました。相高生フォーラムとは相生高校生が現在思っていること、考えていることを全校生徒の前で発表するという相生高校開校当初から続いている行事です、今回は2年生からは基準弁論1名、代表者3名の計4名が出場しました。それぞれの思いや、考えを堂々と全校生徒の前で発表しました。

- | | | |
|-------------|-----------------|------------------------|
| 基準弁論 | 4組 井上尋貴 | 「いじめについて思う事」 |
| | 1組 中江雄一郎 | 「小さな力から大きな社会へ」 |
| | 3組 並木和音 | 「多様性と権利」 |
| | 5組 山本紗希 | 「ドナーカードについて考える」 |



**並木和音さん最優秀賞！
山本紗希さん優秀賞！**



★★★ 相高生フォーラム参加生徒の感想を掲載します。★★★★
「フォーラムを終えて」 3組 並木 和音
今まで、人前で何かをすることは、ほとんど経験したことがありませんでした。なので、弁士に選ばれたときは、緊張しかありませんでした。しかし、練習を積み重ねていくうちに、自分の伝えたいことが言葉で人に届けることができるようになっていくことに感動しました。結果的に最優秀賞を取ることが出来て良かったです。

「とても貴重な体験」 5組 山本 紗希
私は、全体生徒の前で話すというのが初めてだったので、とても緊張しました。練習では1度も完璧に読むことが出来なくて「読み間違ったらどうしよう」と、とても怖かったです。でも、たくさんの友達に応援してもらい最後までしっかりと読むことができました。とても貴重な体験をすることが出来ました。



※Road 後半にてフォーラムの全文を掲載します。



数学理科甲子園 in 甲南大学

10月27日(土)甲南大学で行われた数学理科甲子園に41回生の生徒8名が参加しました。残念ながら予選での敗退となりましたが、普段学校で学習する理科数学の問題とは異なる難問に挑みました。理数の奥の深さを経験し、他校の生徒たちとの交流を深めることが出来ました。

「全国の高み」

この度、理数甲子園に参加させていただきました。起塚です。私はこの大会を通して多くの事を学べたと思います。自分のレベルの低さ、「お勉強を」しているだけでは解けない問題、そしてそれをいともたやすく解いてみせる猛者達の存在……。来年には同じ土俵で戦うと考えると恐ろしいとしか言いようがありません。今からもっと勉強をして、さまざまな体験を積んで、来年の受験にはワクワクした気持ちで臨みたいです。

5組 起塚 亮



スピーチコンテスト県大会出場

3組の井上泰彦君がスピーチコンテスト兵庫県大会に出場しました。本校では過去に県大会出場者がいない中での快挙でした。



「スピーチコンテストを終えて」

3組 井上 泰彦

先日行われたスピーチコンテストで、私は様々なことを学びました。私は自分のいじめについて書き、スピーチをしたのですが、いろいろな人からコメントやメッセージをいただき「伝える」ことの大切さがよく分かりました。また、県大会前には先生方や部活のみんなに支えてもらい、生徒会の仲間にも時間をもらって周囲の人の力の大きさにも感じました。これからも英語のスキルを磨いていきたいです。

※生徒のフォーラム全文

「多様性と権利」

3組 並木 和音

東京医大の入試で女子や浪人生に不利になるような点数操作が行われていたというニュースが

ありました。医学生に占める女子生徒の割合を一定まで減らすというもので、その理由としては、女性が結婚、妊娠をきっかけに休職や退職することによる医師不足を回避することに一因があるということでした。

この問題で引っかかりを覚えるのは女性がジェンダーによって不当な扱いを受けているということだと思います。受験者へ説明もなく合格者の選別をするということが、女性だからといった理由で当たり前に行われていたことは、どう考えても女性差別であり、立派な人権侵害です。点数操作の影響を受けていなければ、優秀な女性医師になり、現在活躍していたであろう女性がいたことを考えると、やるせない気持ちに襲われます。

昔から現代にかけて残る、結婚すると男は仕事、女は仕事を辞めて家庭に守ることが自然だという旧態依然とした思考が今回の事態を引き起こしたのでしょうか。夫婦での役割は当事者が決めることであり他者が勝手に一般的と言われるスタイルを押し付けていいものではありません。また女性はこうである、男性はこうであるという思い込み、ジェンダーによる決めつけが影響する場面も少なくありません。ジェンダーによって作られた性差を小さくし、異性をお互いに尊重できる社会づくりが必要になります。

この意見は、私がニュースや記事を読んで得た感想です。私は考え方、意識改革の問題だと思っていますが、ニュースや記事、ネットでの反応を見る限り、労働環境の問題だと考える人も多いようです。

女性が仕事と育児を両立できる社会づくりを、というのが多くみられた意見です。たしかに、妊娠、出産に関する休暇の取得、その間の金銭的サポート、その後の社会復帰などの制度にはまだまだ改善の余地があります。しかし、それだけでは、女性に家庭内と社会において大きな責任を背負わせることになるだけ、ではないでしょうか。子育てしやすい環境はもちろん必要です。しかし、私はいくら女性への対応を手厚くしても、いくら女性が育休取得のしやすい環境であっても今以上に状況は好転しないだろうと思っています。これだけでは、女性が会社や周囲に迷惑をかけていると申し訳なく感じたり、育児は女性が家庭で行うものだと世間が考える感覚を変えたりすることはできません。実践すべきなのは、男性の育休取得です。皆さんのお父さんで育児休暇を取られた方はいますか、ここにおられる男性の先生で育児休暇を取られた方はいますか、私は男性で育児休暇を取られた方を知りません。冒頭の大学入試の話に当てはめても、男性が結婚、パートナーの妊娠、出産をきっかけにしての休職、退職が、女性と同じほどの比率であれば、ジェンダーによって、大学合格が左右されることはないはずだと思います。内閣府のホームページによれば、日本の男性の平均的な家事育児に費やす時間は約一時間半。対して女性は約七時間半ということです。私の父親もそうですが、多くの男性が家事育児を妻にまかせきっている状況は、子育てに参加したいと思っている男性にも不利益を与えるのではないのでしょうか。

つまり、女性差別は、女性だけの問題ではありません。女性が声を上げ、女性の対応が改善されたとしても、根本的な解決にはなりません。

男性の家事育児時間が少なければ少ないほど、第二子出生率が下がるというデータもあり、妊娠をきっかけにおこる「マタニティハラスメント」の問題など、こんな扱いを受けるなら、と子供を持つことさえあきらめてしまう女性もいるでしょう。これは少子化にもつながる深刻な人権侵害です。目指すべきは、男女ともに、育児休暇の取得率の向上、その間、その後、のサポートが当たり前に行われる社会づくりです。この問題において、私たちが今すぐできることはそう多くありません。しかし、少なくとも私自身は個人の多様な生き方を尊重し、またそれを温かく見守る寛容さを持てるようになっていきたいと思っています。

これからの日本を作り上げるのは私たちです。私たちの意識が変わることが、今後の日本を変えます。そしてより良い、より住みやすい社会につながっていくと私は考えます。

Road



兵庫県立相生高等学校
第41回生 第2学年 学年通信
平成30年11月29日(木) 21章の2

「ドナーカードについて考える」

5組 山本 紗希

皆さんは「脳死」という言葉を知っていますか？脳死とは、大脳や脳幹、小脳など、脳のすべてが動かなくなった状態をいい、心臓をはじめ、すべての臓器は自分の力で動くことができなくなります。もし、あなたの大切な人が脳死になってしまったら、あなたはどのような決断をしますか？臓器が必要な人に提供しますか？それとも心肺が停止するまで寄り添いますか？

私は最近、母とテレビを見ていて、臓器移植について、話をするという出来事がありました。その時ドナーカードといい臓器提供をするかどうか自分の意志を書くカードがあることを知りました。私は自分が脳死になったら、誰かのために臓器提供をしたいと思います。私自身は生きていて実感はないだろうから、それならこれから生きる希望のある人を助けたいと思ったからです。この思いがあるからこそ、臓器提供することで、人の役に立てると思いました。母に、「もし私が脳死になったら、臓器提供を承諾する？」と聞くと、母は、「あなたが臓器提供をしたいという意思があるなら、その意思を尊重してあげたいけど、意思がなければ臓器提供はしたくないかな。だって、臓器提供をするということは体に傷をつけることになるから。あなたの体に傷なんてつけない。」と言っていました。私は母がそんな風に考えていたことを初めて知り、私の意思を尊重してくれるのはうれしいなと思いました。続けて、母はこんなことも言っていました。「私が脳死になったら、臓器提供を承諾して欲しい。」なぜだめなのか、と思いました。でもよく考えると、私も母が脳死になったら、母の意思は尊重してあげたいけれど、大好きな母から臓器を取り出すなんてことはしたくないなと思いました。

2010年に改正臓器移植法が施行され、本人の意思が分からなくても、家族の承諾があれば、臓器提供ができるようになりました。心臓がとまってしまえば、どれだけ頑張っても戻ってくることはないとな納得することができるかもしれません。でも、まだ温かい体から臓器を取り出す決断をするのは、どれだけ苦しいことでしょう。

アメリカのオクラホマ州で2007年、バイクで事故に遭った青年が脳死と診断されたが生き返ったという事例がありました。この記事を知り、脳死は本当に「死」なのか疑問に思いました。臓器移植が行われるということは、一つの命を完全に断ち、これから生きる人の命に代わるということです。私は安易に誰かのためだと軽い気持ちで決めるのは身勝手ではないかと思いました。そこには私を想う多くの人の意思も存在するのです。臓器提供は、人の命を救うことができます。一人の命から心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球を提供することができ、臓器移植を望んでいる人の命を救うことができます。人の死は悲しく辛いものです。でも、臓器提供をする人もされる人もみんなが幸せになれる決断ができるように、生きている間に家族としっかり話し合いをすることが大事だと思います。しっかりと私の意思が伝えられるようになるまで、ドナーカードは大切にしまっておこうと思います。

「いじめについて思うこと」

4組 井上 尋貴

「当たり前」という言葉があります。うまく話すことができ、当たり前、両腕と両足があって当たり前、目で見ることができて、耳で何かを聞くことができ当たり前、という風に私たちの体には、このような努力を必要としない当たり前が潜んでいます。しかし、その当たり前に努力が必要な人もいます。彼らは私たちの当たり前に暮らす生活よりも多くの努力をして、生活を送っているのです。

さらに、当たり前前に努力が必要だという違いから当たり前前に努力を必要としない者からいじめ、あるいは差別を受けることがあるのです。

さて、いじめといった言葉が出ましたが、いじめの起こる原因というものを考えてみます。日本のような先進国では、お金や時間など生活に余裕があります。だからその余った時間で、何か自分とは違うところを探して、その違うところを攻撃することでいじめに発展するのだと思われます。私は、いじめは楽しいことか、といつも疑問に思っています。いじめをする者は、人が痛めつけられることでしか喜びることのできない心が弱い人間で、精神年齢が低かったりするのだらうと思っています。ではここで、発展途上国などの、お金や時間など生活に余裕がない国々について考えてみることにします。発展途上国の人々は普段から学校に行くことができないほど忙しいのです。水を十分に確保できなかったり、今日を生き抜くのに精一杯の人が多くいます。だから、いじめなんて考える時間もないし、もしかするといじめなんて言葉は聞いたことがないかもしれません。いじめなんてそれくらいの認知度でいいのです。そこで日本はどうあるべきなのでしょう。これまでのように、いじめについてのアンケートを取り、実態の把握をし、それについて考えるのも良いのですがそれよりも大切なことは、いじめという言葉や行為を後世に残さない工夫をすることだと私は考えます。このままではいじめはこの先何十年も受け継がれることとなるでしょう。それはあってはならないことです。私はいじめるという無駄なことに時間を費やすくらいなら、もっと次元の高い、今取り組まなければならない課題に目を向けるべきだと思っています。いじめを起こさないことは当たり前ですが、そのように言われても具体的にどう行動すれば良いかわかりにくいでしょう。そこで、もう少し踏み込んで考えてみます。初めに、いじめといっても様々な種類があるようです。それは仲間外れ、悪口、無視であったり、インターネットを用いた誹謗中傷であったり色々なパターンが見られます。それらがあるグループのリーダーたる人が行うといつも一緒にいる人は、自分がいじめの標的になりたくないために便乗します。自分ではいじめをするというのをおかしいとわかっているけど、反論できない空間が存在するのです。すると、周りの人もいじめられたくないのだから傍観する、あるいは、便乗するのみになります。最終的には無法地帯が形成され取り返しのつかないことになってしまいます。こうなってしまう前にどこかでブレーキをかける必要があります。「いじめが立派な人権侵害である。」という強い意志を持っていれば、だれでもどこでもそのブレーキをかけることができます。

人権とは、目には見えないし、普段当たり前のように生活していると、意識しないことが多いと思います。だからこそ、日々の生活で周りの人々に感謝すると同時に、体などにおいて当たり前前に達するために、努力が必要な人には、敬意を込めたあたたかい目で見守り、時には手を貸す必要があると思うのです。

「小さな力から大きな社会へ」

1組 中江 雄一郎

先日 友達と一緒に 駅の階段を上ろうとしたとき、横に大きな鞆を持ったおじいさんが 階段をひとつひとつ上がっていました。手伝ってあげた方がいいことはわかっていたんですが、ずっと声が出ませんでした。友達の顔を見ると同じように、どうしようかと迷っているようで、二人とも黙って止まってしまいました。やっぱり手伝おうと思い、声をかけようとしたとき、小学校低学年くらいの男の子が二人で走ってきました。すぐに一人がおじいさんに駆け寄って、「大丈夫？持てる？」と声をかけました。もう一人もすぐに来て「持ってあげる」といって二人で荷物を持って上がっていききました。おじいさんはびっくりしていたようですが、後からきた子ども達のお母さんに声をかけられて階段を上っていききました。私たちがゆっくり階段をあがると、おじいさんが荷物を持って笑顔で「ありがとうございました。」とお礼を言っていました。私は友達と顔を見合わせて苦笑いをして、足早にホームの端の方に行きました。何だかとても恥ずかしくて、早くその場から離れたかったです。

なぜあの時すぐに声をかけなかったのか。後悔でいっぱいでした。本当はあの時、私の心の中には、自分が声をかけなくても誰かが声をかけるだろうという無責任な安心と、声をかけたらどう思われるだろうという不安がありました。声をかけることはいいことであるにも関わらず、周りの目が気になったのです。いつからか何をするにも周りの目を気にするようになって、自分に正直に行動できなくなってしまったのです。声をかけていればこんなに後味の悪い思いをしなくても良かったはずなのに。「後悔

先に立たず」自分の行動を反省しました。困っているかもしれない人に声をかける事は素晴らしいことです。そして、当然しなければいけないことだと思います。でも、私は堂々としてすることができませんでした。もしも私と同じくらいの年齢の人がおじいさんに声をかけていたら、私はみんなの前でえらいなと素直に認められたのかどうか、半分好奇心で見たりしていなかったか、いろいろなことを考えてみました。そして気づいたのです。僕が今まで無意識にそういう見方をしてしまっているから、自分がちゃんと声をかけられなかったのではないだろうか、小さい頃には素直にできたことが、何となく恥ずかしくなって、みんなと違うことを避けてしまうようになったのです。周りと一緒にだと、たとえそれが正しくなくても安心していられます。

私は自分自身をもう一度きちんと見つめ直さなくてはいけないと感じました。そしてきちんと自分自身と向き合い、良くないと思うところは反省し、今後どうしたらいいかをしっかり考えたいと思いました。私は周りと合わせることも時には必要だと思います。しかし、今回のような場面では、まずは周りの目を気にせず自分の気持ちに正直に行動したいです。そして周りの気持ちや状況もきちんと考えながら、自分の気持ちをきちんと伝えられるようになりたいです。

さらに、困っている人が近くにいたら、周りの誰もが声をかけられるような 雰囲気を作ることが大事だと思います。一人一人が少しずつ意識していけば、社会に大きな変化を起こせるのではないかと期待できます。小さな力が集まれば大きな力になる。僕も社会の一員だということを自覚して、これからはしっかりと自分と向き合っていきたいと思います。

今後の日程

- 1 1月30日(金)～1 2月6日(木) 期末考査
- 1 2月 6日(木) 神戸大学で留学生との交流会(希望者)
- 7日(金) 修学旅行・マラソン大会前健康相談(14:00)
- 1 2日(水) 関西大学・人と自然の博物館見学(自然科学I-II)
- 1 4日(金)～午前中授業(3,4,5,6 限)
- 1 9日(水)～保護者懇談会開始
- 2 1日(金) 終業式大掃除
- 2 8日(金) 仕事納め(以降 1 月 3 日(木)まで登校禁止)
- 1 月 8日(火) 始業式、校内実力考査
- 9日(水) 校内実力考査
- 1 9日(土) 2 0日(日) 入試記述模試、センター試験(来年受験します)
- 2 6日(土)～2 9日(火) 修学旅行
- 3 0日(水) 3 1日(木) 修学力旅行代休